

5 章 砂 防 工

5.1 土工

5.2 コンクリート工

5.3 残存型砕工

5.4 仮設備工（砂防工）

5.4.1 ケーブルクレーン設備

5.5 鋼製砂防工

5章 砂防工

5.1 土工

1. 適用

砂防工（本ダム、副ダム、床固、帯工、水叩、側壁、護岸）の土工に適用する。

2. 数量算出項目

掘削、盛土、床掘り、埋戻し、残土処理、法面整形の数量を区分ごとに算出する。

(1) 土運搬作業が生じる場合は、河床路、一般道路についてそれぞれ運搬距離を算出する。
また、必要に応じて土量配分図を作成する。

3. 区分

区分は、土質、構造物、施工形態、施工幅とする。

(1) 数量算出項目および区分一覧表

項目 \ 区分		土質	構造物	施工形態	施工幅	単位	数量	備考
土工	掘削	○	○	○	×	m ³		
	盛土	○	○	○	○	m ³		
作業土工	床掘り	○	○	○	×	m ³		
	埋戻し	○	○	○	○	m ³		
残土処理		○	○	○	×	m ³		
法整形	掘削部	○	○	○	×	m ²		
	盛土部	○	○	○	×	m ²		

(2) 土質区分

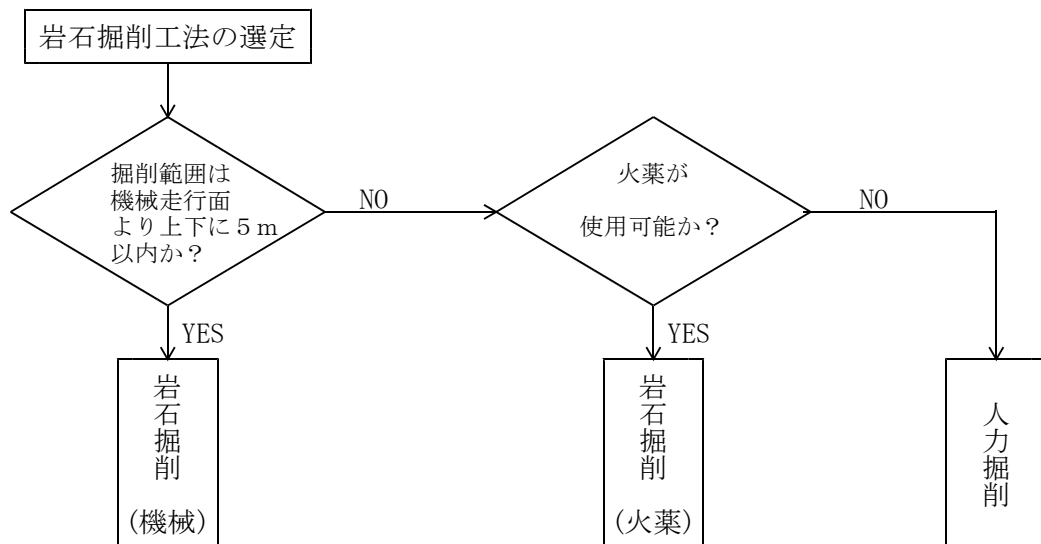
土質による区分は、「第1編（共通編） 2章土工 2.1 土工」による。
なお、破碎を要する転石の場合は、粒径0.5m未満・以上で区分して算出する。

(3) 構造物区分

構造物ごとに区分して算出する。

(4) 施工形態区分

岩石掘削工法の選定は、下図に基づき区分して算出する。



(5) 施工幅区分

施工幅による区分は、「第1編（共通編）2章土工 2.1土工」による。

なお、埋戻し幅については、盛土と埋戻しを同時に施工できる場合には、両方の幅を合わせた幅とする。また、裏側に捨土をする場合には、捨土部を含んだ幅とする。

4. 数量算出方法

数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。

(1) 床掘り勾配及び余裕幅

床掘り勾配は、「第1編（共通編）2章土工 2.1土工」によるものとし、その余裕幅は、0.5mを標準とする。

ただし、岩着部で間詰施工する箇所については、余裕幅は見込まない。

なお、現場条件がこれによりがたい場合は、別途安全性について考慮するものとする。

(2) 数量算出の優先順位

本ダム、副ダム、側壁水叩、護岸等複数の構造物を同時に施工する場合の計算順と集計は、横断構造物（ダム、床固等）の計算を先行し、次に縦断構造物（側壁、護岸等）を計算する。

(3) 整形・床均しの施工範囲

掘削における法面整形と床均し（基礎面整形）の対象は機械掘削により、かつ構造物が直接地盤に接する面とする。

(4) 護岸および側壁の裏込材

現地盤又は盛土材が裏込材と同等と思われる箇所については、裏込材は必要ないものとする。

(5) 埋戻しの施工範囲

埋戻しの施工範囲は現地盤線までとする。ただし、構造物より現地盤線が高い場合は構造物の天端までとする。

5.2 コンクリート工

1. 適用

砂防工（本ダム、副ダム、床固、帯工、水叩、側壁、護岸）のコンクリート工に適用する。

2. 数量算出項目

コンクリート、型枠及び足場（キャットウォーク）の数量を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、構造物、規格とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目 \ 区分	構造物	規格	単位	数量	備考
コンクリート	○	○	m ³		
型 枠	○	○	m ²		
足場(キャットウォーク)	○	×	m		
止 水 板	○	○	m		

(2) 構造物区分

1) コンクリート

コンクリートの数量は、各構造物ごとに区分して算出するものとするが、側壁又は護岸については基礎部と壁部を区分して算出する。

2) 型枠

型枠の数量は、各構造物ごとに区分して算出すると共に、外部型枠、内部型枠に区分して算出する。

4. 数量算出方法

数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。なお、コンクリート、型枠の数量は、必要に応じて「第1編（共通編）4章コンクリート工」により算出する。

(1) コンクリート

堤体コンクリートについては、一般部と堤冠部を区分し、年度区分の数量が容易に算出出来るようにブロックごと（施工高は1m又は基礎の変化点、延長は止水板位置等を標準とする）にも算出する。

(2) 型枠

1) 型枠面積の算出のうち、外部型枠の対象面は各構造物の引き取り対象となる面とする。

ただし、側壁、護岸の裏面及び本体と間詰を同時に施工する場合の間詰の接する面等を除く。

また、内部型枠の対象面は、側壁、護岸の裏面、間仕切り面(日々の打ち止め面)等とする。

2) 化粧型枠を使用する場合は、化粧型枠の種類(使い捨てタイプ、一体型等)ごとに区分して算出する

(3) 足場(キャットウォーク)の適用範囲

- 1) 足場(キャットウォーク)の適用範囲は、型枠の組立、解体用足場を設置する場合とし、基礎地盤より2m上から対象とする。ただし、間詰を施工(本体と同時施工)する場合は、間詰天端より2m上から対象とする。
- 2) 継続工事で間詰、埋戻、水叩等が完成している場合は、その天端より2m上からを対象とする。

(4) 足場(キャットウォーク)延長

足場延長の算出方法は、足場の高さ方向の標準設置間隔を1.8mとして段数を決定し算出する。

[足場延長算定式]

$$L a = \frac{A a}{1.8}$$

- $L a$: 足場延長 (m)
 $A a$: 足場対象面積 (m²)
足場対象面積は垂直投影面積とし、足場の不要となる基礎地盤より2.0m分は控除するものとする。
1.8 : 足場の上下据付(垂直)間隔 (m)

(注) 足場の不要となる基礎地盤とは、平坦($i=1/10$ 以内)が5.0m以上の箇所(砂防ダム等上・下流基礎、半川施工部基礎、同時打間詰天端等)、打設ブロック間の下段コンクリート面をいう。

(5) 水抜暗渠の数量算出

数量は、延長(m)を算出する。ヒューム管の場合の延長は外周下端延長(m)を算出する。暗渠部のコンクリート控除数量は、ヒューム管の外周面積に中心延長を乗じたものとする。

注) 1. コンクリート控除数量は、「第1編(共通編)1章基本事項」による。

5.3 残存型枠工

1. 適用

砂防工事の構造物施工にかかる残存型枠及び残存化粧型枠に適用する。
本工法は、プレキャストのコンクリート二次製品による型枠を使用し、コンクリート打設・養生後の型枠の撤去を必要としない型枠工のことをいう。
また、残存化粧型枠とは意匠を目的とした平面・凹凸面の型枠材のことをいう。

2. 数量算出項目

残存型枠、残存化粧型枠の面積、水抜きパイプの延長を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、構造物、規格とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目	区分		単位	数量	備考
	構造物	規格			
残存型枠	○	○	m ²		(注) 1, 2
残存化粧型枠	○	○	m ²		(注) 1, 2
水抜きパイプ	○	○	m		※100m ² 当り数量を算出

(注) 1. 平均設置高さ「30m以下」と「30m超」に区分し算出する。なお、「30m超」の場合はその設置高さを備考欄に明記すること。

2. 型枠材の100m²当り使用枚数及び1枚当り質量を備考欄に明記する。

(2) 構造物区分

構造物ごとに区分して算出する。

(3) 規格区分

型枠の規格ごとに区分して算出する。

5.4 仮設備工(砂防工)

5.4.1 ケーブルクレーン設備

1. 適用

砂防工の施工に適用する。

2. 数量算出項目

ケーブルクレーンの数量を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、規格とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目 \ 区分	規格	単位	数量	備考
ケーブルクレーン	○	基		

(2) 規格

ケーブルクレーンの規格は、以下のとおりとする。

スパン	75 m以下	ウインチ規格	2 t
	76 ~ 125 m		3 t
	126 ~ 175 m		4 t
	176 ~ 225 m		5 t
	226 ~ 275 m		
	276 ~ 325 m		
	326 ~ 375 m		
	376 ~ 425 m		
	426 ~ 500 m		

4. 数量算出方法

数量の算出は、「第1編(共通編)1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。

(1) ケーブルクレーンの内訳は下記の項目で算出する。

項目 \ 区分	規格	単位	数量	備考
ベースコンクリート	○	m ³		
主索	○	m		
巻上索	○	m		
横行索	○	m		

5.5 鋼製砂防工

1. 適用

鋼製砂防工の透過型のうち、格子形鋼製砂防ダム、鋼製スリットダムB型の設置に適用する。

2. 数量算出項目

鋼製砂防の組立・据付総質量、本締めボルト本数、アンカーボルト本数、無収縮モルタルの体積、現場塗装面積を区分ごとに算出する。

3. 区分

区分は、規格とする。

(1) 数量算出項目及び区分一覧表

項目 \ 区分	規格	単位	数量	備考
鋼製砂防ダム	○	t		
本締めボルト	○	本		
アンカーボルト	○	本		格子形鋼製砂防ダムの場合
無収縮モルタル	○	m ³		格子形鋼製砂防ダムの場合
現場塗装	○	m ²		

4. 数量算出方法

数量の算出は、「第1編（共通編）1章基本事項」によるほか下記の方法によるものとする。

(1) 鋼製砂防ダム

組立・据付質量にはアンカーボルト、ボルト、ナット、ワッシャを除く鋼製部材の総質量とする。